

郷土芸術賞に輝く

<上>

受賞者の横顔

山田北翠さん

(書道)

明日を目指す郷土の芸術家に激励をおくる四十九年度新郷土芸術賞の受賞者が決まった。四十七年に創設された新郷土芸術振興基金が創設され、第一回の贈呈を行っている。三回目を迎えた今年度の受賞者は、まず展示部門で、地元書道界の若手中堅としてすぐれた作品を発表し続ける一方、書の普及に活躍する山田北翠(本名・稔彦)さん。民族に脈打つユーカラの形象化に独自の世界を築く、木彫りの床ヌフリさん。そしてステージ部門で、釧路管楽団、釧路吹奏楽団の創設、育成に努め、音楽教育の振興に功績の大きい佐藤昌之さんの三人。三十日に開かれる贈呈式の前にそれぞれの業績と横顔を紹介する。

入賞するまでになった。から自分のものを創り上げる一歩、仲間が翠人会というグループをつくり、師と仰ぐのは桑原翠邦氏、そして道な生き方である。もうひとりの師は「古典」だ。昭和三十四年に角田麗石さん、書書の普及の場である。中国の碑文や古法帳など古立花杵さんとともに朔風会を結ぶ。一書道人口がどんどん増えていると抱負を語っている。

数々の書道展で入選

桑原院長と「古典」を師に勉強

本名は稔彦、号に、私淑する桑原翠邦氏(書宗院院長)の「翠」の一字をつけた。代用教員時代の昭和二十五年、桑原氏の講習にあって感動したのが書の道に入るきっかけだった。それ以後、全日本書芸文化院から書誌を取り寄せて独学、めきめきと上達して三十二年の市民展で市議会議長賞を受賞したのははじまり、四年続いで

典の臨書を重視するのは書宗院の成する。毎月二回の研修、年に一回の展覧会を続け、実績を積み上げてきた。釧路市公民館に勤務し、間ができてきたこともあり、この伝統文化に対する理解が高まった。その間に書道熱が盛り上がった。その



う。そして、自分自身も、そうした熱心な人たちとともに、筆を持つて、間は書き続けていきたいと抱負を語っている。

立釧路高校(現湖陵高校)二期生。二十五年に卒業後、鳥取中、寿小で代用教員を勤め、二十八年に釧路市役所入り。いろいろ博物館、図書館、公民館など社会教育畑を主に歩き、現在市立釧路図書館奉仕係長。

書歴は二十四年になる。昭和三十四、三十五年は道連書道展で特選、翌年から無鑑査。三十六年に

全日本書芸文化院師範。四十二年に、代表的な書道展である毎日書道展に初入選、その後、四十四年、四十六年にも入選している。道展でも二回入選。昨年の道東書道展で準大賞、ことしは大賞を贈られた。個展も三回にわたって開いている。釧路書道連盟副会長。四十四歳。

昭和五年、釧路市の生まれ。道